

柏崎市えんま通り商店街におけるまちづくり市民事業による住宅再生と市街地復興プロジェクト

「えんま通り復興協議会」・「えんま通りの復興を支援する会」

社会的背景

【空洞化が進む商店街を襲った中越沖地震】

2007年7月に発生した中越沖地震により被災した柏崎市えんま通り商店街における市街地復興プロジェクトである。中越沖地震により空洞化した中心市街地が多く被災し、その中でも最も被害の大きかった商店街がえんま通り商店街である。えんま通り商店街では地区の約半分の店舗や住宅が全壊した。(図1)

コンセプト

【市民主体の復興まちづくり】

本プロジェクトのコンセプトは、専門家の支援のもと、復興協議会を通して、被災者が主体的に復興計画を作成し、被災者及び市民自ら事業体をつくり、段階的に事業を実施しながら復興を推進することである。

取り組み概要

【まちづくり市民事業で構成する復興まちづくり構想】

えんま通り商店街では、震災直後から商店街を中心に住民の自主的なまちづくりを始め、復興基金を活用して自ら専門家を雇い、復興協議会を立ち上げた。専門家や行政との緊密な連携と被災者及び市民の主体的な参画のもと、模型を用いたワークショップや丁寧なヒアリングなどを通して、震災後1年で、まちづくり市民事業によって構成される復興まちづくり構想を取り纏めた。(図2・3) (写真1・2・3)

【多様なまちづくり市民事業の生成】

復興まちづくり構想に基づき、それぞれの事業主体を形成し、共同建て替えによる住宅再建や店舗の再建、福祉高齢者拠点の実現、文化財の再建や共同店舗の実現、個別の店舗併用住宅の再建など、多様なまちづくり市民事業を創発しながら段階的に復興まちづくりを推進した。(図4) (写真4)

【創発的なガイドラインの運用】

復興まちづくりガイドラインを作成し、創発的にガイドラインを運用していく仕組みとして、模型を用いた開かれた協議の場を開催した。また、ガイドラインを持続的な仕組みとするため地元建築士会との連携を推進している。ガイドラインを通して、景観形成やまちなかの移動・住環境を向上させる中庭を連続させた「お庭小路」などのコミュニティ空間(コモンズ)の形成を目指した。

取り組み結果

【復興まちづくり構想に基づく計画の実現】

震災後1年で作成した復興まちづくり構想において計画した12のまちづくり市民事業が、ほぼその通りに完成し、多様なコミュニティ空間の実現と希望する被災者の住まいと商業の再生がほぼ全て達成された。

【継続的なまちづくり体制の実現】

多様なまちづくり市民事業による再建及び、個人や事業者による自立再建も含めて、震災直後から商店街主要メンバーによる定期的な情報交換を継続し、復興協議会をプラットフォームにまちづくり全体を調整することで、震災以前よりも多くの、まちづくりに関わる多様な主体が集まり、ハード、ソフトの様々な事業を含め、まちづくりが継続的に推進されている。(図5)

【起点としての2つの共同建て替え事業】

支援する会は、まちづくり市民事業の核となる2つの共同建て替え事業の企画、構想、事業化、設計、事業完了まで関わると共に、協議会及び地元建築士会と連携し、模型を用いたワークショップや各種助言などを通して、すべてのプロジェクトに関わっている。(図6・7)

【コミュニティを単位とした市街地復興の方法論】

以上のように、現代都市住宅学分野の課題である災害復興において、コミュニティを単位とし、まちづくり市民事業により市民が主体的に市街地復興を推進する上でのモデル的な方法論を示した。

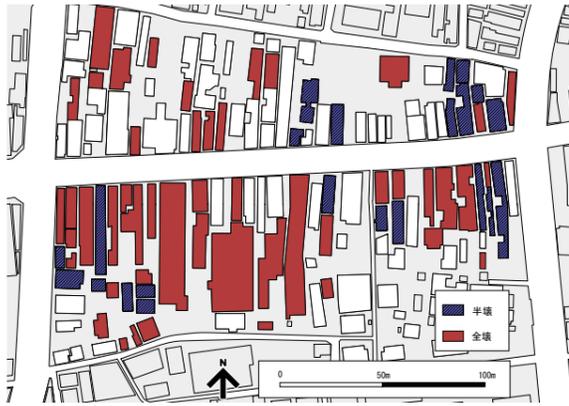


図1. えんま通り商店街の被災状況

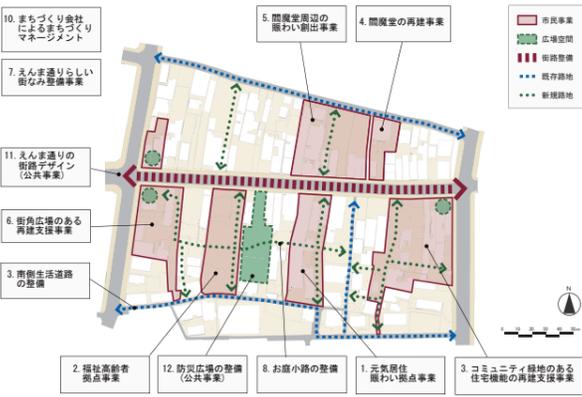


図2. 復興まちづくり構想図



図4. 整備状況図 連鎖的なまちづくり市民事業の実現



図6. 元気居住賑わい拠点事業



図7. コミュニティ緑地のある住宅再建事業

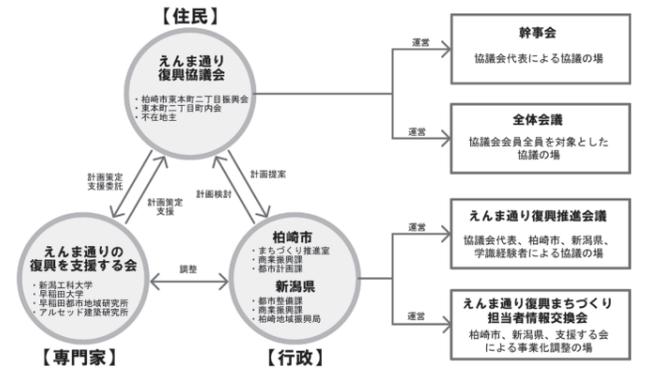


図3. 復興まちづくりの体制図



写真1. 幹事会 (毎週開催)



写真2. 全体会議



写真3. 建替えシミュレーション



写真4. 市民事業主体との検討

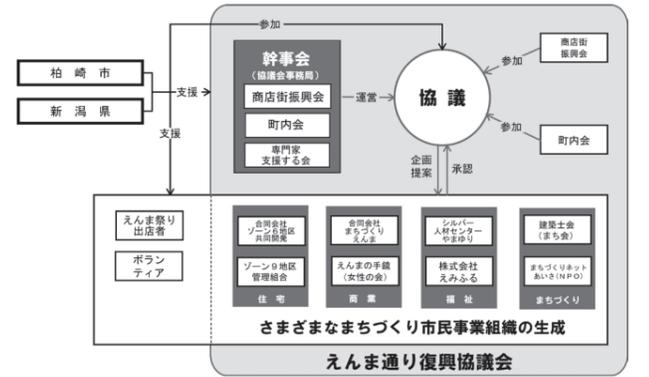


図5. えんま通り復興まちづくりの布陣図

